



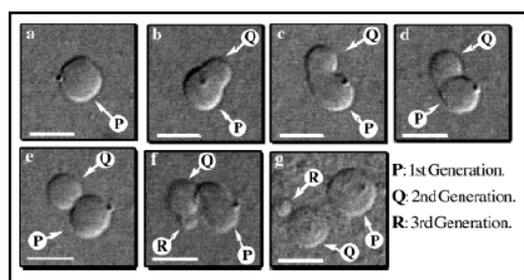
高倉 克人

両親媒性化合物などの形成する“柔らかい分子集合体”に着目し、細胞膜に似た分子集合体であるベシクルに“養分”を与えることにより、ベシクルが自身の材料となる物質を生産し、増殖していく細胞モデルの構築や、両親媒性化合物が形成する集合体のもつ疎水環境を利用した有機化合物の生成反応について研究を行っています。研究を進める中で両親媒性化合物（界面活性剤）や蛍光色素などの有機合成と機器分析、分子集合体の顕微鏡観察などを行ないます。

所属： 生物応用化学科 職名： 教授 学位： 博士(理学)

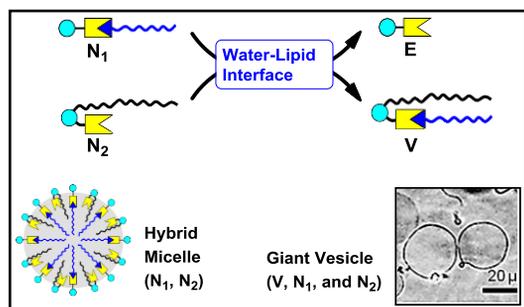
Mail: katsuto@chem.suzuka-ct.ac.jp

Web: [research map](#)



人工両親媒性化合物を用いた自己複製ベシクル

(ベシクルに“養分”を与えると、ベシクルが自身の成分を生産しながら増殖していきます)



水中での微小な疎水環境を利用した両親媒性分子間転移反応 (通常の均一系では進行しない有機反応が進むことを見出しました。)



課外活動 - 柔道部長 -

(全日本柔道連盟公認 C指導員資格を持っています。)

研究

専門 有機化学

所属学会 日本化学会, 日本油化学会

研究 人工両親媒性化合物を用いた動的細胞モデルの構築, 水中で形成される微小疎水環境を反応場とする転移反応

Key word 両親媒性化合物, 界面活性剤, ベシクル, 転移反応, 有機合成

実験装置 有機合成のための装置一式

論文など [research map](#)

教育

担当授業 有機化学 (3年), 工業英語(3年), 物理化学Ⅱ(4年), 界面化学(5年), 有機化学実験 (2年), 物理化学実験 (4年), 創造工学 (4年), 卒業研究 (5年)

学生の進路選択の幅を広げるため、座学では大学編入学試験や就職試験の内容を意識して講義を進めています。卒業研究や実習科目では、卒業後に必要とされる実験技術や報告書作成能力、発表能力の習得に重きを置いていきます。